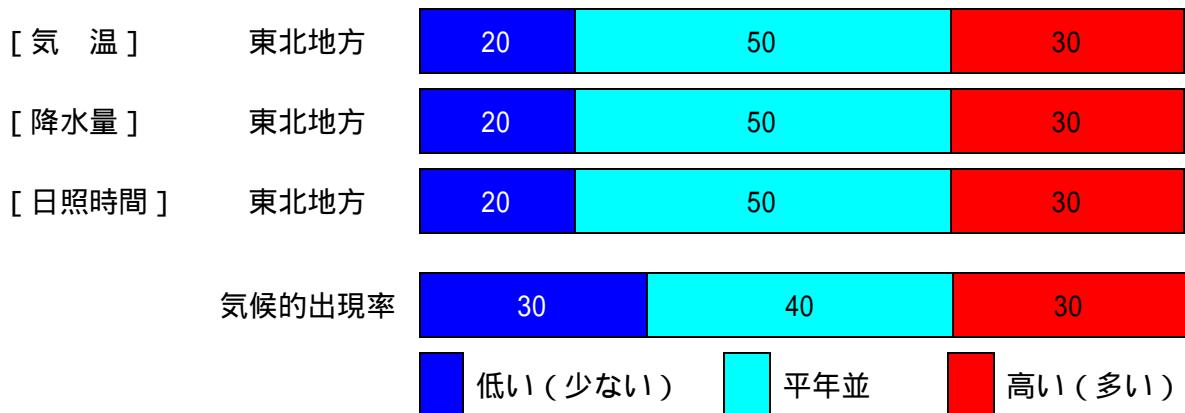


東北地方 1か月予報の解説（予報期間：5月8日～6月7日）

平成11年5月7日 仙台管区気象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



[気温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「高い」で30%です。「低い」確率は20%と小さい。

[降水量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」確率は20%と小さい。

[日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい確率は「多い」で30%です。「少ない」確率は20%と小さい。

2. 予想される天候の特徴（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです）

向こう1か月

この期間、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。平年同様晴れの日が多い見込みです。

平均気温は「平年並」でしょう。

各予報期間の天候の特徴

1週目…………… 低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。

（5/8～5/14） 平均気温は平年並の見込みです。

（詳細は週間天気予報を参照）

2週目…………… 低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わりますが、平

（5/15～5/21） 年同様晴れの日が多いでしょう。

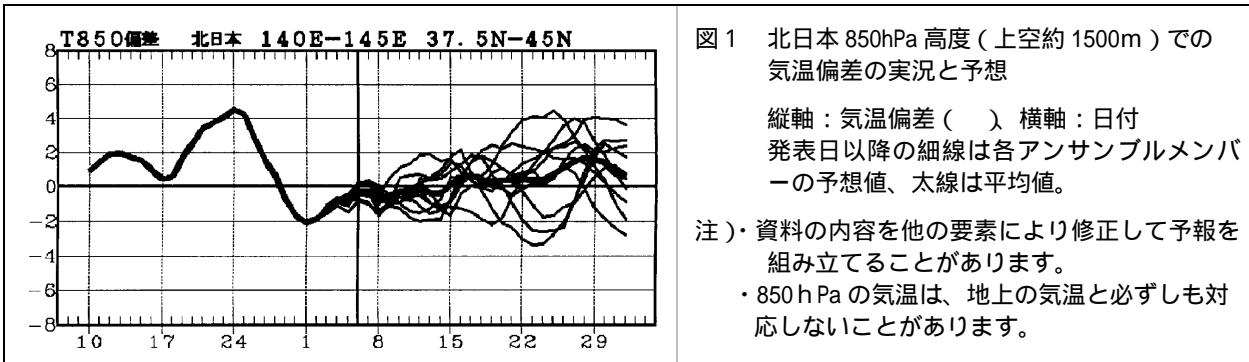
平均気温は平年並の見込みです。

3～4週目…………… 低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変わるでしょう。

（5/22～6/4） 平均気温は平年並の見込みです。

3. 850 hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーを平均するとこの期間平年並が予想される。4 月末からの負偏差は解消に向かう。2 週目後半からはバラツキが大きくなるが、3~4 週目に向けてやや昇温傾向を示す。



注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（4月30日～5月6日）の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。期間のはじめは全国的に高気圧に覆われ晴れたが、3~5日にかけては深い気圧の谷が通過して全般に雨となった。気圧の谷の通過後は大陸からの高気圧に覆われたが、6日には上空に強い寒気が入ってきたため大気の状態が不安定となり、日本海側では一時雨や雷雨となった。

気温は、太平洋側で平年より1前後高いところが多かったが、日本海側を中心に平年をやや下回った。降水量は、発達しながら通過した低気圧の影響もあり平年よりかなり多くなった。日照時間は平年より多かった。

表1 最近1週間の 平均気温、降水量、
および日照時間の平年差（比）
(地域平均値、アメダスによる速報値)

	気温偏差 ()	降水量 (%)	日照時間 (%)
東北全域	+0.3	250	111
東北日本海側	-0.2	219	105
東北太平洋側	+0.7	271	114